

社 是

ひねらんかい
(知恵を出そう、工夫しよう)

経営理念

洗練された、自己主張できる社員が、
意欲的に働き、顧客から評価され、
成長と収益をもたらし、
活気に満ち溢れているアグレッシブな会社

経営目標

Strong & Great
強く偉大な会社

経営方針7原則

Speed
組織としての意思決定はもちろん、お客さまへの対応やサービス提供のスピードを速めることで、ビジネスチャンスを確実にとらえると同時にお客さま満足の向上につなげています。

Stretch
当社では常に高い目標を目指し続けています。過去と同じことをしていたのではその目標に届くことはできず、絶えずイノベーションを起こし変化することで成長を遂げてきました。

Partnership
経営陣・社員の区別なく全社員が経営者意識を持って業務にあたることを説きます。

Fair & Open
当社ではやったらやった分だけ公平に評価されるという環境と、結果を社員全員にディスクロージャーするオープン経営を実現します。

Originality
経済環境に関係なく卓越した利益をあげるため、情熱を持って取り組めるものは何か、自社がNo.1になれるものは何か、それは利益を生むものか、の3点を満たすものを事業に掲げ、誰にも負けない事業を展開します。

Passion
必ずできるという意志の強さ、情熱、どんな困難にぶつかっても最後は必ず勝てるという信念を持ち続け、増収、増益も実現し続けます。

Free & Rule
強く偉大な会社になるためには、きちんとしたルールに基づく秩序と、そ
の中での創造性が必要です。当社では規律の中の自由を文化とします。

株主メモ

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会 毎年12月
株主確定基準日 定時株主総会・期末配当金 9月30日
その他必要がある場合は、あらかじめ公告して定めます。
公告方法 電子公告
<http://www.septeni-holdings.co.jp/>
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
TEL:0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次窓口 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
株式の売買単位 1株
証券コード 4293



株式会社 セプテーニ・ホールディングス
<http://www.septeni-holdings.co.jp/>

※本報告書の中の業績予想等につきましては、本報告書作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の数値は、今後さまざまな要因により予想数値と異なる結果となる場合があります。



本誌は大豆油インキを使用しています。



SEPTENI
Communication

第19期 報告書

2008年10月1日～2009年9月30日

社長インタビュー ————— Top Interview
事業別の概況 ————— Overview by Business Segment
財務情報 ————— Financial Analysis
業績の推移 ————— Five-Year Summary
会社概要／株式情報 — Corporate Data / Stock Information

株式会社 セプテーニ・ホールディングス

証券コード:4293

新社長が語る、セプテーニグループの方向性

時代の変化を、成長のチャンスに。
企業体質改善と積極的事業開発で、
新たな飛躍を目指します。

大きく変化する社会経済状況の中で、セプテーニグループはどのような成長戦略を描いているのか。
新たに就任したセプテーニ・ホールディングスの佐藤光紀社長に、グループの目指すべき方向性について伺いました。

株式会社セプテーニ・ホールディングス
代表取締役社長

佐藤 光紀

Q1 まず最初に、佐藤新社長の
経歴を教えてください。

A1 セプテーニの社風に惹かれ、
12年間、会社とともに成長
し続けてきました。

この度、(株)セプテーニ・ホールディングス代表取締役社長に就任いたしました佐藤光紀です。

私は1997年に新卒採用で当社に入社し、1999年に新規事業開発を行う当社独自の制度「ひねらん課」の第一号としてインターネット広告事業の立ち上げを手がけました。その後、取締役インターネット事業本部長、専務取締役などを経て、今回、グループ全体の指揮を執る重責を担うこととなりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。

私が入社してからの10数年、セプテーニグループは大きな変化と成長を遂げました。私の入社当時は社員20名程度の小さなベンチャー企業でしたが、現在では売上高、従業員数ともに数十倍の規模となり、日本国内でも

有数のインターネット広告事業を手がける企業グループとして成長してきました。私はこうした躍進を支える原動力が、セプテーニ独自の企業風土、またそこで伸び伸びと成長する人材の力にあると感じています。

私がセプテーニに入社を決めたのは、そうした社風の中で生き生きと仕事をする先輩たちの姿に感銘を受けたことがきっかけでした。「セプテーニであれば、自分と会社が共に大きく成長できる」という思いで、大企業への就職を辞し、セプテーニへの入社を決意しました。

それから10数年、私は会社から仕事のやりがいを学び、さらに大きな変化を起こすべくインターネット広告という新規事業を興すなかで、会社とのパートナーシップを通じ、ビジネスパーソンとして、また一人の人間として少なからず成長できたと自負しております。人材育成力はセプテーニグループを支える競争力の源泉であり、この価値観を、グループのトップとしてしっかりと継承し、発展させていきたいと考えています。

Q2 第19期の業績を振り返って、
率直なご感想をお聞かせください。

A2 大変厳しい結果でしたが、
新たな成長への手応えを
実感できました。

世界的な景気悪化の影響と当社の内部要因が重なり、第19期の業績は厳しい結果となりました。インターネット広告事業は同業他社に比べ高い成長率を実現し、市場シェア拡大を達成したものの、顧客である広告主企業の予算縮小が起因し、当初の計画には到達しませんでした。

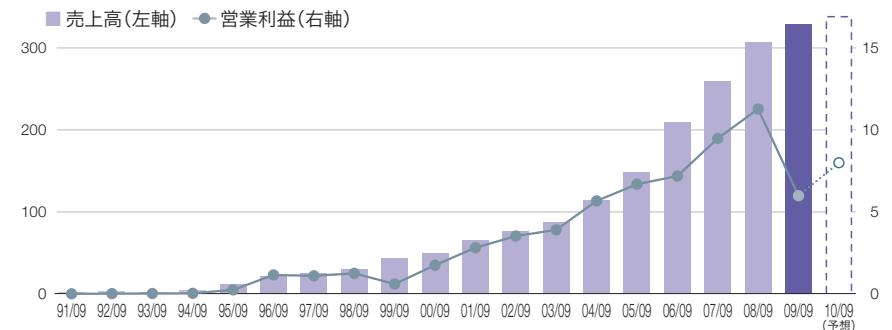
また、コンテンツ事業やコマース事業については、未だ収益化には至ってお

らず、立て直しが急務です。

一方で、厳しい状況の中にも将来の成長へ向けた手応えを感じることができました。ひとつは、モバイル広告分野の成長です。セプテーニグループでは以前よりモバイル広告をインターネット広告市場における次世代の成長ドライバーとして位置づけ、積極的な事業開発を推進してきました。その結果、2009年度のモバイル広告取扱高において業界ナンバーワン*のポジションを獲得しました。また、2008年7月に宮崎県に開設したリスティング広告の運用拠点が本格的に稼働し始め、SEMオペレーション業務の生産性向上に寄与しました。

* (株)ミック経済研究所
『ネット広告&Webインテグレーション市場の現状と展望
2009年』より

◆ 創業からの歩み(単位:億円)



Q3 第20期の事業方針について教えてください。

A3 筋肉質な企業体質づくりを進め、V字回復を実現します。

短期的な景気回復が期待できない中、セプテーニグループでは現在の経済環境下でも増収増益を継続できる体質づくりを進めます。そのために、第19期より本格化したコスト削減施策と、採算を重視した営業活動を今後も継続します。

また、インターネット広告事業においては、モバイルインターネット市場でのリーダーシップを獲得すべく、モバイル広告分野へさらに注力します。その一環として2009年10月にはモバイル専門の広告会社「ミュージム」を新設しました。また、サイト制作や運用サポートなどのウェブソリューション分野を強化することで、当社の収益機会を拡大します。さらに、広告主やメディアへの付加価値を提供すべく、アドテクノロジー分野への投資を行います。一方で、

前期の課題となったコンテンツ事業の立て直しと、コマース事業の黒字化に取り組みます。

コスト削減と不振事業のテコ入れ、そして新たな成長分野の種まきを通じて、第20期における業績のV字回復を目指します。

Q4 セプテーニグループの将来ビジョンを教えてください。

A4 これからの10年を第3創業期と位置づけ、新たな業態開発に挑みます。

今期、セプテーニグループは創業20周年という節目の年を迎えています。また、現在の主力事業であるインターネット広告事業も開始以来約10年が経過しました。セプテーニグループは、自ら業態を進化させることで成長を続けてきた企業集団です。1990年に創業し、インターネット広告事業を開始した2000年を第2の創業期とすると、これからの10年は第3の創業期と



して新たな業態開発にチャレンジする時期だと考えています。

そのために当社が最も重視するのは、やはりセプテーニグループが磨いてきた価値観・企業文化であり、そこで働く人材の潜在力です。優秀な人材を採用し、彼らが社内で磨かれることで新しい事業を興していく。その成長サイクルこそが、グループの持続的な成長を可能にするものと考えます。社員一人ひとりが仕事にやりがいを感じ、成長を実感できる環境づくりに、なお一層力を注ぎます。

また、人材育成の具体的な施策として

「100人の商人(あきんど)」を輩出するという目標を掲げています。「商人」とは、起業家や事業責任者、経営者を意味します。昨年から「商人輩出プロジェクト」を開始し始め、社内だけでなく社外からも若手事業家を募り、優秀なビジネスプランに対して出資を行うなど、商人輩出を加速させています。こうした施策をさらに強化することで、経営目標である「強く偉大な会社」を目指し、これからの10年、大きな飛躍を遂げたいと考えています。

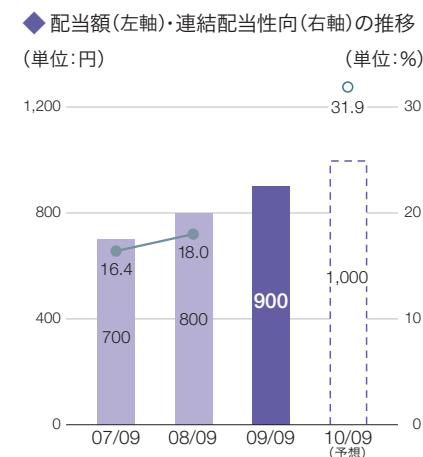
Q5 株主への利益還元の考え方について教えてください。

A5 約15%の配当性向を継続、新たに配当金の下限を設定いたしました。

セプテーニ・ホールディングスでは、株主の皆様への利益還元として、従来は連結純利益の15%程度を目安に配当を実施してきました。第20期からは従来どおり純利益の15%程度を目

安にしつつ、1株当たり年間配当金の下限を1,000円と設定し、業績の拡大に応じた適切な利益配分を基本としながら、安定配当の継続にも配慮していく方針です。

また、配当性向と同じ純利益の15%程度相当分を人材育成のために投資していく、というのが当社の基本的な考えです。前述のとおり、当社にとって人材育成は成長の要であり、その成果が事業の発展につながり、結果的に株主の皆様への利益につながるものだと考えています。長期的な視点で、ぜひ当社の活動をご支援いただければ幸いです。



注) 2009年度については、当期純損失が計上されているため、配当性向は記載しておりません。

Q6 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A6 変化の時代をチャンスととらえ、成長回帰を果たします。

まず、第19期の業績が当初計画を達成できなかったことを真摯に受け止め、反省すべき点を反省し、現実を見据えた対策を講じます。しっかりと対策を打つことで、第20期はV字回復を達成し、株主の皆様への信頼を回復したいと考えています。

2009年は世界的にも大きな変化の年となりました。当社は、変化への対応力でこれまで成長してきた経緯があり、変化をチャンスとしてとらえる文化を持っています。

セプテーニグループの新たな成長に向けて、引き続き、株主の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

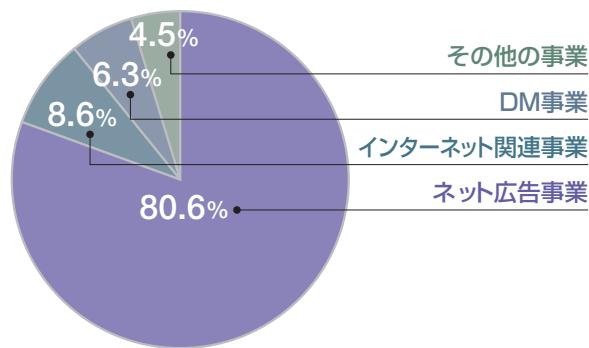
グループ総合力で目指すインターネットマーケティングNo.1へ



【持株会社】
株式会社セプテニ・ホールディングス
(上場会社)

◆ 株式等の保有を通じたグループ企業の統括、管理等

◆ 当期のセグメント別売上構成比(セグメント間売上を除く)



ネット広告事業

● 当期においては、成長著しいモバイル広告の拡販や営業体制の強化による顧客業種の拡大を図るとともに、リスティング広告業務の一部を地方拠点に移管するなど生産性の向上にも取り組みました。しかしながら、第3四半期以降は、景気低迷による顧客企業の広告予算削減の影響を大きく受け、当期の売上高は26,706百万円(前期比5.4%増)、営業利益は908百万円(同12.5%減)となりました。



株式会社セプテニ
連結対象会社(出資100.0%)
<http://www.septeni.co.jp/>
◆ インターネット広告事業
◆ インターネット上のプロモーション全般の支援

株式会社セプテニ・クロスゲート
連結対象会社(出資95.0%)
<http://www.cgate.jp/>
◆ アドネットワーク、プラットフォーム事業

株式会社エイエスピー
連結対象会社(出資60.0%)
<http://www.asp.co.jp/>
◆ eマーケティングソリューション事業

インターネット関連事業

● コンテンツ領域においては、先行投資案件が収益化に至らなかったこと等により計画比未達となりました。一方で、モバイル広告のレップ部門については、需要の拡大を背景に大幅に売上を伸ばし、テクノロジー領域についても堅調に推移いたしました。その結果、当期の売上高は4,578百万円(前期比8.1%増)、営業利益は62百万円(同67.2%減)となりました。



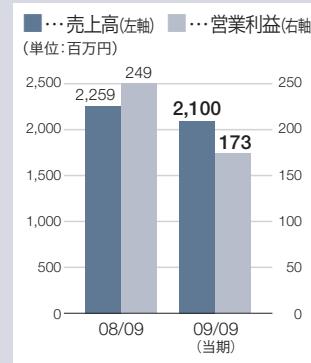
アクセルマーク株式会社
連結対象会社(出資54.5%)
<http://www.axelmark.co.jp/>
◆ モバイルサービス事業

株式会社メディアグロウ
連結対象会社(出資100.0%)
<http://www.media-grow.co.jp/>
◆ モバイルメディアレップ事業
・2009年4月にアクセルマーク(株)より分社化、2009年9月30日付でセプテニ・ホールディングス直下に再編しました。

トライコーン株式会社
連結対象会社(出資100.0%)
<http://www.tricorn.co.jp/>
◆ 電子メール配信システム等の提供

DM事業

● 需要が縮小する厳しい事業環境のもと新規顧客の開拓に注力いたしましたが、既存案件の減少等により、当期の売上高は2,100百万円(前期比7.1%減)、営業利益は173百万円(同30.5%減)となりました。



株式会社セプテニ・ダイレクトマーケティング
連結対象会社(出資100.0%)
<http://www.septeni-dm.co.jp/>
◆ 紙媒体の発送代行業務

その他の事業

● 当期より開始したコマース事業により売上高は1,501百万円(前期比約30倍)と大幅な増収となりましたが、広告宣伝費用などの販売費及び一般管理費が高水準で推移したことや、投資育成事業において一部の投資先株式にかかる営業投資有価証券評価損101百万円を売上原価に計上したこと等により、営業損失は210百万円(前期は34百万円の損失)となりました。

株式会社アクレス
連結対象会社(出資100.0%)
<http://www.acress.co.jp/>
◆ 通信販売事業

連結財務諸表のポイント

(単位:百万円)	当 期 (2008年10月1日～2009年9月30日)	前 期 (2007年10月1日～2008年9月30日)	増減率
売 上 高	33,046	30,700	7.6% ↗
営 業 利 益	598	1,125	46.8% ↘
経 常 利 益	421	1,010	58.2% ↘
当期純利益又は純損失(△)	△585	563	—

POINT 1 売上高

主力のネット広告事業が景気後退の影響を大きく受け、第3四半期から減収に転じたことが影響し、前期比7.6%増の33,046百万円と伸び悩みました。

POINT 2 営業利益

グループ全体で経費削減を推進しましたが、インターネット関連事業の収益性が大幅に低下したことや、コマース事業および投資育成事業において営業赤字を計上したこと等により、前期比46.8%減の598百万円にとどまりました。

POINT 3 経常利益

保有金融商品の時価評価に伴う投資有価証券評価損や持分法投資損失等により営業外収支が悪化し、前期比58.2%減の421百万円となりました。

POINT 4 当期純利益

財務体質健全化を図るための各種投資有価証券の処分に伴う投資有価証券売却損及び評価損、ネット広告事業における広告事故解決金、インターネット関連事業における貸倒引当金等により合計887百万円の特別損失を計上しました。その結果、当期純損失は585百万円(前期は563百万円の利益)となりました。

(単位:百万円)	当 期 末 (2009年9月30日)	前 期 末 (2008年9月30日)	増減額
流 動 資 産	9,494	10,090	△596
固 定 資 産	2,417	3,392	△975
流動負債・固定負債	6,140	6,694	△553
純 資 産	5,770	6,788	△1,018
総 資 産	11,911	13,482	△1,571

POINT 5 流動資産・固定資産

流動資産は、受取手形及び売掛金の減少や営業投資有価証券の減少等により、前期末に比べ596百万円減少し9,494百万円となりました。

固定資産は、株式の売却等による投資有価証券の減少や減損損失の計上に伴う長期前払費用の減少等により、前期末に比べ975百万円減少し2,417百万円となりました。

POINT 6 流動負債・固定負債

流動負債は、買掛金の減少および未払法人税の減少等により、前期末に比べ851百万円減少し5,769百万円となりました。固定負債につきましては、長期借入金の増加等により、前期末に比べ297百万円増加し371百万円となりました。

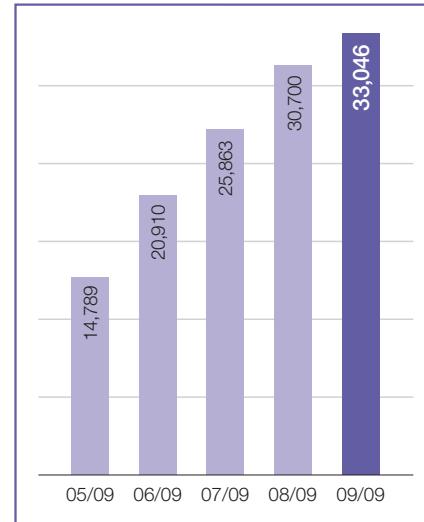
POINT 7 純資産

配当金の支払いおよび当期純損失の計上に伴う利益剰余金の減少や自己株式の取得等により、前期末に比べ1,018百万円減少し5,770百万円となりました。

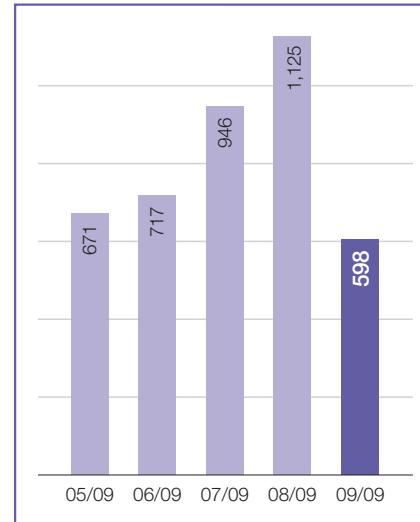
詳細な財務情報は、当社ホームページにてご確認ください。

URL: <http://www.septeni-holdings.co.jp/ir>

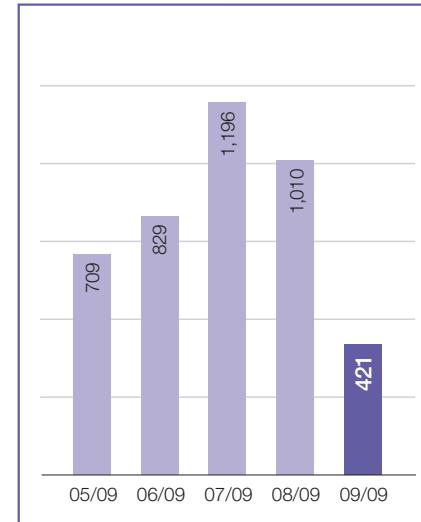
◆売上高(単位:百万円)



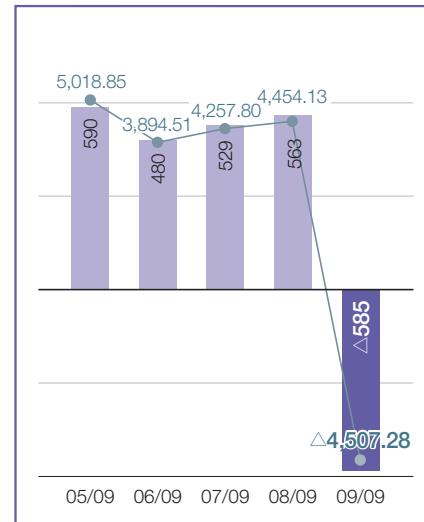
◆営業利益(単位:百万円)



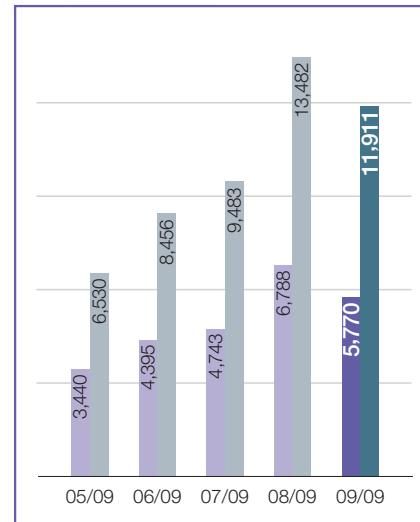
◆経常利益(単位:百万円)



◆当期純利益又は純損失(△)(単位:百万円)
◆1株当たり当期純利益又は純損失(△)(単位:円)



◆純資産(単位:百万円)
◆総資産(単位:百万円)



◆自己資本比率(単位:%)
◆自己資本当期純利益率(単位:%)



会社概要 (2009年9月30日現在)

商号 株式会社セプテーニ・ホールディングス (SEPTENI HOLDINGS CO., LTD)
 本社所在地 東京都新宿区大京町24番地 住友外苑ビル
 Tel:03-5363-7340 Fax:03-5363-7341
 事業内容 株式等の保有を通じたグループ企業の統括、管理等
 設立 1990年10月
 資本金 19億97百万円
 連結従業員 629名(正社員)/692名(従業員)

役員構成 (2009年12月18日現在)



代表取締役社長 佐藤 光紀 (前列中央)
 代表取締役会長 七村 守 (前列左)
 取締役副会長 野村 宗芳 (前列右)
 専務取締役 上野 勇 (後列中央)
 常務取締役 清水 一身 (後列左)
 取締役 松田 忠洋 (後列右)
 常勤監査役 柳 克久
 監査役 廣渡 嘉秀
 監査役 木村 達也

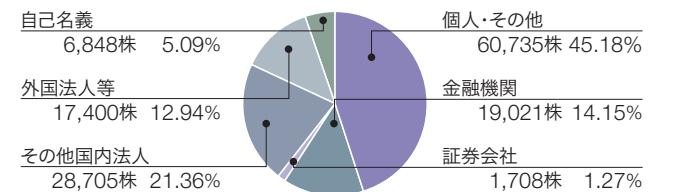
株式の状況 (2009年9月30日現在)

発行可能株式総数	370,080株
発行済株式総数	134,417株
株主数	5,728名

大株主(上位10名)	持株数(株)	持株比率(%)
1. 株式会社ピレッジセブン	20,500	15.25
2. 七村 守	16,516	12.29
3. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,214	6.11
4. ヤフー株式会社	7,000	5.21
5. ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウ	5,697	4.24
6. 資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,883	3.63
7. ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン スペシャル アカウ	3,025	2.25
8. 清水 洋	2,480	1.85
9. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,405	1.79
10. 岩見則男	2,105	1.57

(注)当社は、自己株式6,848株を保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

◆所有者別分布



◆所有株数別分布

